

「命」って繋ぐ(じゅ)

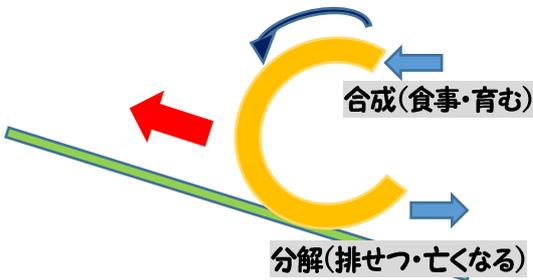


11月3~5日に森のようちえん全国交流フォーラムに参加してきました。3日の基調講演は、生物学者で作家の福岡伸一先生による「生命(せいめい)とは何か」という内容のお話しでした。あまりにもテーマが大きすぎて、わたしは始め構えて聞いていましたが(実際、研究内容とかがやっぱり難解でした)、自分なりに解釈して、「そういうことか」と腑に落ちたところを感想と共にご紹介したいと思います。

◇エントロピー増大の法則

福岡先生のご研究は、この「エントロピー増大の法則」です。

これは「物事は放っておくと乱雑・無秩序・複雑な方向に向かい、自発的に元に戻ることはない」ということだそうで、生命はこの法則に抗しているのだそうです。



放っておくと乱雑・無秩序・複雑な方向に向かう。これ、なんとなく思い当たることないでしょうか。たとえば、毎日の掃除。整理・整頓しようとしないと、ドンドン無秩序な状態になる。散らかる。畑の手入れ、森の手入れ…。そして人間関係。全くもってその通りですよ。

◇壊すことによって秩序を保つ生命現象

何もしなければ、わたしたち生命体は無秩序な方向に向かいます。でも、なぜ、生命は秩序が保たれているのかというと、エントロピー増大の法則よりも早く、自ら壊し続けているからです。

わたしたちの細胞は60兆個とも言われていますが、別に悪くなったりしてなくても、定期的に生まれ変わります。この世の物質は悪くなれば交換したりしますが、生命はそうではないのです。常に分解と合成を繰り返しています。

そうやって命を繋いでいるわけです。そして、分解の方が早く進むので、命が尽きるというわけです。

福岡先生はこの生命の有限性を「最大の利他的な行為」とおっしゃっていました。

◇創造は壊すことから始まる

たけの子には、既成のおもちゃはほとんどなく、あつても積み木などです。延長保育の時には、ブロック等を出していいことになっていますが、通常の保育時間の時にはほとんど使いません。折り紙をする時もチラシを切ったものを使っています。

つまり、「壊しても惜しくないモノ」で遊んでいるの

です。もともと、遊びというのは、変化するものです。だからこそ、自分たちで新しく作り変えることができ、創意工夫が生まれます。

子ども達が、砂場や水が好きなのは、形が自在に変わるからです。だから面白い。それが高額なおもちゃになればなるほど、「壊してはいけないもの」になります。

なるほどな、だからたけの子の子ども達はイキイキしているんだ、って思いました。

「面倒でも自分で作る。形が不格好でも、うまくいなくても、また次、挑戦する。」

子ども達は、知らず知らずのうちに「エントロピー増大の法則」なるものに抗っていたんですね。

では、そうでない遊びを繰り返している子ども達はどうなるのでしょうか、とふと考えてしまいます。

「生きている実感がわかない」「そんな声が青少年から聞かれるようになってどれくらい経つのでしょうか。」

指一本で、簡単に破壊行為ができるゲームの世界。でも、本当はリアルな世界ではそんなに簡単なことではありません。力がいらいます。知恵もいらいます。一緒に戦う仲間もいらいます。

今、世の中が正に無秩序な方向に向かっていると感じる日々の中で、生命体として、何を壊し、作っていくのかを問われているような気がしてなりません。

辺見妙子